

クリンテートシリーズ「調光ライト」の効果確認試験

JAふらの

亀淵 貴史



1. 試験品(調光ライト)外観



2. 試験品(調光ライト)外観



3. 慣行品(イースター)外観



4. 慣行品(イースター)外観



5. 試験品(調光ライト)内観



6. 慣行品(イースター)内観

試験目的

クリンテートシリーズ「調光ライト」の効果確認試験

試験作物及び品種

メロン(ティアラ28)

試験資材及び数量(規格)

調光ライト(0.1mm×840cm×97m) 1枚

慣行資材

コーティング5+1、イースター

栽培方法

播種日	収穫日	【栽植密度】 株間：80cm
慣行区：3月27日 試験区：3月27日	慣行区：7月1日 試験区：7月2日	

資材使用期間

2月15日～10月24日

試験区面積

500㎡

試験結果

- (1)作業性について(慣行品との比較)**
慣行品と比較し、作業性は問題なかった。
- (2)作物の生育状況または、収穫への影響**
ミツバチの交配が2日遅れ、それに準じて収穫もずれた。
それによる収穫作業の平準化にはならなかった。
- (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について**
【優位点】：慣行品に比べ優位点はなかった。
【問題点】：慣行品に比べ問題点はなかった。
- (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について**
強度や耐久性について特に問題はなかった。
- (5)促成・抑制効果について**
抑制効果については特段変わらなかった。
- (6)保温効果について**
元々の透明度が若干慣行品の方があったため、早い作型では差が出る可能性がある。

モニター感想

調光の散乱効果を踏まえても自分の作型では夏場は遮光ネットが必要だった。
そのため自分と同様の作型のメロンでの普及はなかなか難しいと考えられる。
流滴性については問題なかった。

JA担当者の感想(富良野支所 生産資材課 原口主任)

亀淵様の作型では調光を展開しても夏場の遮光ネットの展張が必要だった。
遮光ネットの展張作業の軽減を図れば作業省力化の観点から普及につなげられると考えていたが、結果としては軽減できなかった。
調光を使用いただいているハウレン草やイチゴ等については高評価であることから作物を選ぶと考えられる。
今後他の作物への普及に向けてホクレン・メーカーと相談して進めたい。

今後の使用について

改良して欲しい。
メロンに関しては上記で説明した通り、なかなか普及は難しい商品だと考える。
しかし次年度以降も使用し、慣行品との温度差の比較は見ていきたいと考える。

将来希望する資材について

安価で保温性があるマルチ資材。
理由：ハウス天井に使用できなくなった古いフィルムをマルチに使用しているが、フィルム自体の性能が高まり、寿命が延びているため、全て古いフィルムでは賄えなくなってきている。そのため、上記のような商品があればありがたい。

1 高温対策

2 害虫忌避効果

3 調光フィルム

4 ネット広幅

5 クリントート

6 マルチ

7 不織布

8 育苗資材

9 酪農資材

10 その他